

■ 第1期推進期間（2016年度～2017年度）フェーズⅠ「開催につなげる取組期間」

「かわさきパラムーブメント」を中心とした、東京2020大会に向けた本市のビジョンを共有化し、取組の基礎となるネットワークやしくみづくりを重点的に進めます。

ひとつづくり

■ 心のバリアフリーの推進

【具体的な取組事例】

● 市内イベントにおける障害のある人の就労体験の実施

ピープルデザイン研究所との連携により、川崎フロンターレホームゲームなど市内スポーツイベントや映画、音楽イベントなどで、福祉事業所に通う障害のある人の就労体験を実施します。

● 今年度の取組

性的マイノリティの方々を身近に感じ、理解を深め、互いに尊重しあえる機会にすることを目的とした映画上映・トークショーイベントを8月17日に実施し、併せて就労体験の場も創出した。

■ 国際交流の推進

【具体的な取組事例】

● 英国との交流事業の実施と「ホストタウン構想」の推進

本市で事前キャンプを行う英国オリンピック委員会への協力を契機として英国とスポーツ、文化、教育、産業など幅広い分野での交流事業を実施します。また、これらの取組については国が進める「ホストタウン構想」を活用します。

● 今年度の取組

音楽による文化交流として英国在住音楽家による「ジェイミーのコンサート」を6月2日に開催したほか、ブリティッシュカウンシルと連携した取組を開始した。

[大会後のレガシー]

ボランティア文化（人材・しくみ・意識）、心のバリアフリー、多文化共生の社会、国際社会に貢献できる人材、障害のあるひとに配慮した就労環境

スポーツ振興・健康づくり

■ 障害者スポーツの推進

【具体的な取組事例】

● 障害者スポーツの推進組織の強化

昨年10月に創設した川崎市障害者スポーツ協会の活動として、障害者スポーツに関する情報発信や団体間のネットワークづくりのほか、障害者スポーツを体験できるイベントなど、障害者スポーツの普及に向けた取組を進めます。

● 今年度の取組

川崎市障害者スポーツ協会事業として、市障害者スポーツ大会や全国障害者スポーツ大会の選手派遣等を実施したほか、障害者スポーツに関する普及啓発イベントとして、「誰でもスポーツ広場」を8月21日に富士通スタジアム川崎で開催した。



■ スポーツによる体力向上や健康づくり

【具体的な取組事例】

● 市民参加のスポーツイベントの開催

多摩川ランフェスタや各区における地域の特色を活かしたスポーツイベントなど、市民が気軽に参加することができるスポーツイベントを開催します。また、それらの活動を推進するため、地域人材であるスポーツ推進委員会と連携・協力していきます。

● 今年度の取組

「川崎国際多摩川マラソン」を11月20日、「多摩川リバーサイド駅伝in川崎」を3月19日に開催し、市民がスポーツをすることができる環境向上を図る。

[大会後のレガシー]

誰もがスポーツに親しめる環境、健康づくりや生きがいにつながるスポーツや運動の習慣、アスリートを発掘・育成・支援する環境

■ JOCやJPCとの連携の推進

【具体的な取組事例】

● オリンピアンへの派遣によるスポーツ教室の実施

JOCパートナー都市協定に基づき、大規模スポーツ大会のサブイベント等において、オリンピアンを招いたスポーツ教室や体験会を実施します。

● 今年度の取組

今年5月に開催した「ゴールデングラプリ陸上2016川崎」のプレイベント及びサブイベントにおいて、オリンピアン・パラリンピアンによる陸上教室や交流イベントを実施した。

まちづくり

■ バリアフリー化の推進

【具体的な取組事例】

● スポーツ施設のバリアフリー化の推進

2015年度までに実施した市内スポーツセンターの現地調査に基づき、2016年度から3か年で優先度の高い施設や項目についてのバリアフリー化を進めます。2016年度はとどろきアリーナを対象に実施し、以後、順次他の施設について取組を実施します。

● 今年度の取組

とどろきアリーナにおいて、バリアフリー化工事及びトイレの洋式化改修工事を今年度内に実施する。

[大会後のレガシー]

ユニバーサル化の進んだ公共空間、羽田空港を核とする成長戦略拠点と連動した交通ネットワークの形成

都市の魅力向上

■ 市内への集客・回遊性の向上

【具体的な取組事例】

● 市内施設の回遊性の向上

市内博物館・美術館の共通利用券や生田緑地4館（日本民家園・かわさき宙と緑の科学館・岡本太郎美術館・藤子・F・不二雄ミュージアム）の連携やスタンプラリーの実施等により施設間の回遊性の向上を図ります。

● 今年度の取組

夏休み期間中に生田緑地4館連携スタンプラリーを実施したほか、開館5周年を記念した藤子・F・不二雄ミュージアム周辺及び等々力陸上競技場にあるモニュメントを活用したシールラリーを9月3日から11月6日まで実施した。

[大会後のレガシー]

多言語に対応した観光施設、拠点化・ネットワーク化された観光資源、市民・来訪者がアイシーティーを利用しやすい環境、国内外に浸透した本市のブランドイメージ、誰もが文化芸術に親しめる環境

先進的な課題解決モデルの発信

■ 先端技術の世界に向けた発信

【具体的な取組事例】

● 福祉製品、サービスの開発企業との連携

ウェルフェアイノベーションフォーラムの取組などにより、市内中小企業の優れた技術力などを応用した利用者のニーズに応えた福祉製品の創出や福祉産業の拡大、活性化のための取組を進めます。

● 今年度の取組

日本アンパティサッカー選手権大会会場（10月2日 富士通スタジアム川崎）において、自動車手動運転装置体験会・最新モビリティ試乗会「かわさき基準（KIS）認証製品が『移動』の可能性を広げる」を開催した。

[大会後のレガシー]

高度な医療ニーズに対応した革新的な医薬品・医療機器の開発による国際的な課題解決への寄与、低炭素化の推進による地球環境問題解決への寄与、新たな福祉製品・サービスの創出による国際的な高齢化の課題解決への寄与、先端技術に関する世界的なプレゼンス

